

# エゾマツ

第 4 号

発行 フランティア・レンジャー  
「エゾマツ会」 1988. 1. 30  
発行責任者 河村千束

## 初夢によせて

会長 河村 千束

希望と夢に満ちあふれた新春を迎え世継の御禮勝と御多幸を心からお喜び申し上げます。私達は、いま新しい時代の潮流にのり新しい世紀を迎えようとしています。この流れの中において人々は強いのある豊かな生活を求めるために、郷土北海道の豊かな自然の恩恵を受けてまいりました。この豊かな自然を新しい世紀へ引き継ぐため、昨年は折りにふれ自然の素晴らしさ、自然の大切さを多くの人々と共に学び、語り、お互いに理解を深めて参りましたが、今年は自然と人間のパイプ役として会員の皆様とともに、更に研鑽に努め自然に親しむ心、生物を愛する心を一層深めて参りたいと思っております。

さて、昔から初夢は正月二日の夜にみる夢で、夢占いから生まれた言葉であるといわれています。私の見た初夢はそのような夢でなく、日々考えていた事が夢となったまでのことです。

昨年は、毎月野幌の自然観察会に参加し、多くの人々と自然との接し方、見方、考え方を学びました。その折々に何処か適当な処に私達の学びの巣を作りたいと思うようになりそれが今年の初夢となった訳です。

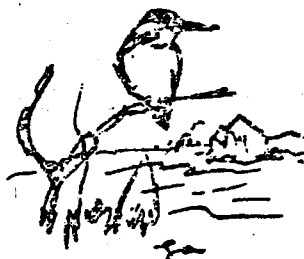
夢の中では多くの自然に親しむ人々が集まって何やら楽しく話をしています。その場所はニレの木、シナの木、イタヤカエデ等の大木が繁っている野幌森林公園の大沢口のようなものでした。その羊びの業は、自然木を生かした山小屋風の二階建ての立派なもので、一階には事務室、調査室等があり、二階は野鳥観察室となっており、四方が窓で自由に観察できるように観察用望遠鏡が四台据え付けられていて人々は思い思いに野鳥を観察しておりました。ウトナイ湖の安西先生のような人がおられ、ユーモアたっぷりに野鳥の話をしておりました。私も早く野鳥を見たいと思うのですがなかなか順番が回ってきません。そのうちに何かの音で夢から覚めるというロマンに満ちた楽しい夢でした。

四十年前、チャーリー・チャップリン主演のモダンタイムスという映画がありました。彼の生活はすべて機械によるもので、ついに人間が機械に使われるという当時としては極めてロマンに満ちた夢を主体にした傑作な作品で、若き日、私は大いに感動したものでした。

ところで、現在私達の周辺は次第に電化され高度の電気製品の中で生活する高度ハイテク家庭となると何かに書いてありました。時の流れとともに科学の発展は益々高度化されるであろうし、高度化が進めば進むほど人々は夢もなく、人間の理性さえも失われ、味気ない世になっていくことを私は危惧しています。

このような味気ない世にならないように、人間らしい豊かな潤いのある生活が出来るよう私達は新たに自然を大切に、自然を慈しみ、自然に親しむことを認識しロマンのある夢を何時までも追いつづけていきたいものです。

そこで、私の初夢、野幌森林公園に私達の自然観察丸太小屋を建てる夢を正夢になるよう今年に努力したい。そしてロマンある楽しい夢を抱きつつ、面白い楽しい自然観察会、自然の中で楽しい遊びを人々と共に繰り広げていくことを今年のご目標とし年頭の御挨拶といたします。



## ウオッチングの意味

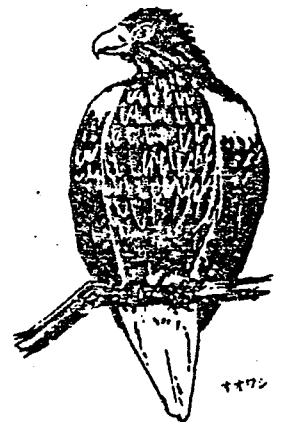
安西 英明  
(ウトナイ湖サンクチュアリ・レンジャー)

秋、ウトナイ湖にカモの類の数が増すと、タカの仲間をしばしば見かけるようになる。最も頻度が高いのが、湿原のタカ、チュウヒで時にオオタカやハヤブサも来襲する。

ウトナイ湖サンクチュアリにやって来る多くの来訪者はもちろん、バードウォッチャーでもタカの仲間の識別は難しい。トビとの区別もつかない人が、むしろ普通であろう。ところが、狙われる側のカモたちは、危い相手を見分けているのが常である。私は来訪者に「カモたちの反応を見ていれば、それがトビか、トビ以外のタカであるかが解りますよ」と説明している。

10月の末、いよるよオジロワシがやって来た。続いて11月にはオオワシの登場である。翼開長2メートルを越すワシでさえ、一般の方々はトビと混同されている。人間の感覚は案外鋭い。オオワシの部分が改められて見たり、感動したりする対象は大きく見えないものだ。また、ワシとて遠くを飛んでいれば点である。私は来訪者に次のように話す。「もしカモが逃げ出すならトビ以外のタカ、カモより大きなガンまで飛ばすようならそれはワシです。」と。季節が秋から冬へとの進行し、エサ台に小鳥がやって来るようになる。寒さとともにその数を増し、厳寒期には賑やかになる。それらに小鳥を食わなけたら、寒さになると、毎年ハイタカが現われるようになる。小鳥を食わなけたら、生き延びないハイタカだが、狩りは失敗が多い。そもそも私たちがハイタカの来襲を知るのには、小鳥がさっといなくなることからである。ウオッチングしていると、自然界がいかにかげり、見えてくるとは自然のバランスが保たれる。一万、補食者が皆餓死してしまえば狩られる側の増えすぎにつなぐ。バランスがくずれ、時に犠牲者も出る。狙われる側がどこで危い相手かを判断し、あるいは察知するのかわかっているよ。よく解っていないが、私には、人間の理屈を越した野生の感のようなものがある。思えてならない。

人類は文明を築き、自然界とは比較にならないほどの安全性や、便利性を手に入れた。しかし、それが、野生の生命に備わっているはずである。例えば、「危い！」と気づくのが遅れたら、遺子が引継がれ、現在の野生種が存続しているのウオッチングの意味のひとつが、あると思ふ。自然の中で野生を生きる動物は、私たちが自身の本来的な感性を改めたり、磨いたりするところだ。だが、





## 長夏 兵

住吉光子

20年ばかり教壇に立っていた。  
力不足ながら、教育基本法に基づき、自然科学の分野についてもカリキュラムに応じて学習を深める手助けをして来たつもりである。人間の歴史が自然とどの様な関わりの中で進歩して来たか、都市文明をもたらす為にはどれだけ自然が破壊され、人々が苦しみを今もなおもち続けているか等は社会科の中で共に考えて来た。つまり、自然と人間の関わりについても、教科の特性に応じた方法で体系的に指導をして来たと思っていたのである。

しかし、教壇を離れ今まで接することのなかった場所に足をつっこんで、教育という仕事を外側から見つめ直して見て、何と大切なことを見落として来たことかと思われることが多いのに驚いている。

その1つに、大いなる自然に対する価値感がある。

何故もっと野外に出て、あるがままの自然の中から発見の喜びを知らせなかったのか。

身近な自然の中に生命の尊さを見出し、自然を慈しむ心をもつと育てるべきではなかったか。

大人が感じとっている“緑のやすらぎ”を子供達にも知らせる努力をもっとしていたら“いじめ”を柔げる力になっていたのではなかったか等多々反省させられるのである。

自然保護憲章を守る為になどと大上段に行動を起す程のさしたる信念はない。

家庭菜園の雑草の中にも何かしら愛しさを覚えるのはこっけいだろうか。愛犬の散歩道の中に、実に多様な自然があることを今更発見したと言うのでは恥ずかしいだろうか。

20年も住んでいる地域の自然を今になって見つめ直してみたいと思ふのでは遅いだろうか。

TV番組で自然を取り扱ったものを視るのが好きである。図鑑を片っ端からめくっていただけでも結構楽しくて時間を忘れる。

でも今の私はがん強に這い続ける畑の中のスベリヒユを正確にスケッチして見たいと思っている。時折飛んで来る名もわからない鳥の為に、今より少し大きく巣箱を作り替えてやりたいと思っている。来年は今年の倍くらいヒマワリの壺を収穫したいものだと思気込んでいる。そして、教壇に立ったばかりの娘に今の私の“思い”を聞かせてはうるさがられているのである。

## 「自然観察雑感」 ～関連図書読後感を合せて～

小山 賢一郎

もともと私は旅が好きで、訪れた先や途中の景色や景観を写真に撮るとい  
いわば、単なる記録を残す程度のものでしたが、数年前から路傍の野草やハイ  
キング・登山路近くの野草・山草・樹木等の観察に関心を持つようになり、気  
が向けばそれ等を写真に撮りました。また、時折自然観察会などにも参加して  
多少なりとも知識を広めたいと思っていました。折しも、道主催の研修会に参  
加する機会を得て同好の方々の一端に加わることができ、新たな道が開けつつ  
あることを非常にうれしく思います。

ところで、単に観察会や研修会に参加しているだけでは、今後ボランティア  
としての役目をはたすことは到底できるものではありません。さりとて“その  
役目をはたすため”というほどの強い責任感を持っているわけではありません  
が、とにかくエゾマツ会の一員として、メンバーの方々と一緒に会の目的を理  
解しつつ、その活動を広めていきたいという考えは持って行きます。

また、自然についての理解を通して自然保護にも関心を向けたいと思いつつ  
最近読んだ数冊の本の読後感を綴ることにします。

随分以前から全国のブナ林の伐採が大きな問題になり、その保護をめぐる  
話題が沸騰しましたが、私もこのことに関心を持ち、「北限のブナ林」（北海  
道林務部編）を読みました。黒松内低地帯のブナ林を中心に、多くの図表、地  
図を加えての生態的説明がなされており、ブナの保護林、自然林を早く観察し  
たいという気持を起こさせてくれた本です。また、全国的な関心を集めている  
白神山地のブナ林については、「白神山地に生きる」（鎌田孝一著、白水社発  
行）を読み、自然保護の在り方について、とくに地域に根ざした切々たる訴え  
（発言）からその重要性を知ることができて感動を覚えました。なお、鎌田氏  
はこの作品で第20回吉川英治文化賞を授与されています。ごく最近読み終え  
たものでは、「知床を考える」（本多勝一編、晩聲社発行）があります。知床  
の自然保護について、多岐にわたるすどい分析・検討がなされており、大い  
に関心をよび起こさせてくれるさすがにジャーナリストとしての率直な見解が  
語られています。私には納得しうるものばかりではありませんでした。

なお、字数の関係で以下は、目下読みつつある書名を記すにとどめます。

「北の国の雑木林」（菊地喜八郎著、蒼樹書房発行）

「日本の植物区系」（前川 文夫著、玉川大学出版部）

## 私の願い

工藤正司

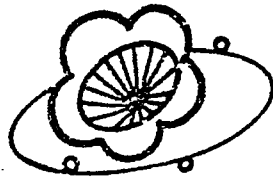
多様化の時代に対応する望ましい人間のあり方が問われている最近、21世紀を担う子供達に、豊かな人間性、サバイバル的創造力が求められ、今ほど自然を大切にし、育み親しむことが必要ではないでしょうか。

北海道の豊かな自然の中で、汗して遊び作業し、共同で暮す体験学習をどんどんさせたいものです。そこには、人間社会の在り方や地球という全体の視野から自然と人類の生存にかかわる新しい生活様式を生みだそうとする力、生態系学習の源があると思います。又、自然の奥深き偉大さを体験しなくては、自然の有難さや畏敬の念も育たないと思います。

幸いにして自分は、「(財)おたる自然の村公社」に勤務している関係上、接する子供達、キャンパーに、お手伝い出来ればと考えています。

具体的に


- 1、自然の中で何をするのか、目標を立てること。
- 2、自分達の行く自然の予備知識を持つこと。
- 3、自然の中に入って行く団体、グループのリーダーがどのような事をするのか、等です。



### アンケートについて

会の活動に会員の皆様の意向を反映し、会の活動がより身近なものになるようアンケートを同封致しております。お手数ですが2月末日までに、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

# エゾマツ会年間行事計画表

行	事	備考
1月	※ 月例観察会 (1/14) 会報4号発行	※印は野幌森林公園主催のもの です 4月以降については会報 5号でお知らせします
2月	※ 冬の森林観察会 (2/28)	
3月	※ 月例観察会 (3/10)	
4月	ウトナイ湖春の渡り鳥観察会 (4/3) 早春の野幌森林公園 (ゴミ拾 い活動) (4/24) 会報5号発行 (下旬)	
5月	旭川北野草園を尋ねる (下旬)	

○ 5月以降の行事日程については会報5号  
でお知らせ致します。

○ 4月3日 ウトナイ湖春の渡り鳥観察会  
午前10時 ウトナイレイクホテル前  
駐車場集合  
持ち物 昼食 双眼鏡等

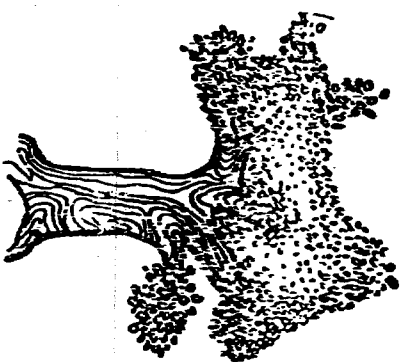
○ 4月24日 早春の野幌森林公園  
午前10時 野幌森林公園大沢口駐車場  
に集合  
持ち物 昼食 双眼鏡等

野幌森林公園自然観察会

6月	野柳森林公園自然観察会 協力参加 (主催 道・支庁・森林公園に よる環境週間行事) 上旬	
7月	雨沢沼高層湿原を尋ねる (上旬 山小屋一泊) 会報6号発行 (中旬)	
8月	西岡水源地ホタル観察会 (上旬) 第3回エゾツツ会総会 (中旬)	第3回ボランテイア・レシビヤ 一斉成研協会 (道 自然保護課)
9月	岩見沢利根別自然体叢林へ (中旬) 会報7号発行 (中旬) 羊蹄山登山 (下旬)	
10月	エゾツツ会研協会 ※野柳森林公園秋の森林観察会	研修会は講師を依頼し野柳森林 公園秋の森林観察会と2日日程 を予定
11月	栗箱作り (上旬)	
12月	反省会	

○ 不明な点については下記の者にお問い合わせください。

河村 電話 011-561-8669  
 大友 電話 011-621-6054  
 高橋 電話 0133-74-2058





## エゾマツ会の動き

- 62年10月 1日 会誌エゾマツ3号発行
- 10月17日 エゾマツ会研修会 於 道庁別館 17名参加
- 10月18日 野幌森林公園秋の森林観察会 12名参加
- 10月30日 拡大役員会
- 10/17~10/18の研修会の反省と今後の取り組みについて 11名参加 (内2期生3名)
- 11月24日 63年 年間行事計画と活動方向についてのアンケート作成について 10名出席
- 12月24日 道自然保護課へ年末の御挨拶 河村 高橋
- 63年 1月20日 道自然保護課へ年始の御挨拶 河村
- 1月23日 アンケート作成委員会 8名出席
- 1月30日 会誌4号発行予定

## お 原 頁 し

62年度会費未納の方は至急納入してください。

振替用紙を御入用の方は下記までご連絡ください。

小竹 敦博 札幌市東区東苗穂6条1丁目8-26

電話 011-784-6251

## 編修後記

エゾマツ会ができてから一年が過ぎました。今年は昨年までの取り組みをもとに、更に種々の企画取り組みがなされることと思います。その一つが今回のアンケートであり、もうひとつが会長の年頭の挨拶にある会員のたまり場たる小屋づくりになると思います。この小屋ができたらどんなにかエゾマツ会員のよりどころになることでしょう。

今までは研修は受けたけれど、さて何をしたらよいのか、何処へ行ったら会員に会えるのかさっぱり見当が付きませんでした。小屋を建てるには種々大変なことが有ると思います。皆様知恵と力、汗を結集して是非とも実現してほしいものと思っています。

# 「エゾマツ会」の運営に関するアンケート

私たちボランティア・レンジャー「エゾマツ会」は、自然とのふれあいを通して、私たち自身の知識を深めるとともに、自然を大いに楽しみながら、ボランティア・レンジャーとしての活動を進めていきたいと考えています。

このアンケートは、「エゾマツ会」の今後の運営の参考にさせていただき実施するものですので、よろしく願います。

\*記入式以外のところは、該当する番号に○印をつけて下さい。

I まず、あなた自身のことについて、お伺いします。

問1 あなたの住んでいる市町村名をお書き下さい。 \_\_\_\_\_市・町・村

問2 性別をお答え下さい。 1 男 2 女

問3 年齢は、次のどの年代に該当しますか。

- 1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代  
6 70代以上

問4 職業は、次のどれにあたりますか。

- 1 農林業 2 漁業 3 その他の自営業 4 会社員  
5 会社役員 6 公務員 7 教職員 8 自由業 9 学生  
10 主婦 11 無職 12 その他( )

問5 あなたの興味(関心)のある自然は、次のどれですか。(複数解答も可)

1 動物(ア 鳥類 イ 獣類 ウ 昆虫 エ 魚類  
オ その他( ))

2 植物(ア 高山植物 イ 身近な野草 ウ 樹木 エ きのこと  
オ 薬草 カ その他( ))

3 地形・地質 4 天文・宇宙 5 その他( )

6 特になし

問6 自然を対象とした趣味・特技があれば次の中から選んで下さい。(複数解答も可)

- 1 写真(ア 動物 イ 植物 ウ 風景 エ その他( ))
- 2 スケッチ 3 絵(ア 油彩 イ 水彩) 4 バードカービング
- 5 その他( ) 6 特になし

問7 あなたが自然の中に出かける時の主な目的は何ですか。次の中から選んで下さい。(複数解答も可)

- 1 登山・沢登り・山登り 2 山歩き・ハイキング 3 散策・散歩
- 4 自然観察・探鳥 5 山菜・きのこ採り 6 魚釣り 7 川遊び
- 8 キャンプ 9 ピクニック・炊事遠足 10 山スキー・歩くスキー
- 11 その他( )

問8 あなたは、野鳥の会、植物同好会など自然を対象にした他の会に参加していますか。差しつかえなければ団体名をお願いします。

- 1 参加している。(団体名: )
- 2 参加していない。

問9 自然観察会等への参加状況についてお尋ねします。

- (1) ボランティア・レンジャー育成研修会受講前から観察会等に参加していましたか。
  - 1 参加していた。
  - 2 参加したことはなかった。
- (2) (1)で「参加したことはなかった」と答えた方にお聞きします。研修会受講後は参加しましたか。
  - 1 参加した。
  - 2 参加していない。
- (3) (1)(2)で「参加した(していた)」と答えた方にお聞きします。あなたは、その観察会にリーダーとして参加しましたか。
  - 1 リーダーとして参加した。( 回ぐらい)
  - 2 リーダーとしては参加したことはない。

Ⅱ 「エソマツ会」の組織と運営について、あなたの御意見をお聞かせ下さい。

問1 組織についてお聞きします。

(1) 当会の会員は道内全域に居住していますが、連絡・打合せなど各地域における活動を円滑に行うために、地方支部的な組織が必要と考えますか。

1 必要だ。      2 必要だが、現時点では困難、時期尚早と思う。

3 必要ない。      4 その他 (      )

(2) (1)で「必要ない」と答えた方にお聞きします。今後の会員相互の連絡、意見交換はどのようにすべきと考えますか。

1 連絡員体制でよい。      2 会報の情報だけで十分である。

3 その他 (      )

問2 年間の活動計画についてお聞きします。

(1) 「会」としての年間の行事はどれくらいが適当と考えますか。

1 月に2回      2 月に1回      3 2カ月に1回      4 3カ月に1回

5 その他 (      )

(2) 行事の内容について、何に重点をおくべきと考えますか。

1 自己研鑽、資質向上のための研修会の開催      2 一般を対象とした観察会等の開催

3 1と2の両方      4 その他 (      )

(3) とりあげてほしい行事がありましたらお書き下さい。(研修会、観察会に限定しませんのでご自由に…例 写真展、スキーツアー)

(4) その他、「会」の活動計画等について御意見、御提案がありましたらお書き下さい。

問3 観察会、研修会についてお聞きします。

(1) とくに行ってみたい場所等がありましたらお書き下さい。

- (2) 研修会のテーマについて、とくにとりあげてほしい、勉強してみたいテーマがありましたらお書き下さい。
- (3) 研修会の講師として、希望する先生がいましたらお書き下さい。(テーマもあわせて)
- (4) その他、観察会、研修会について御意見をお聞かせ下さい。

問4 会報「エゾマツ」についてお聞きします。

- (1) どのような記事をお望みですか。記載内容、編集方法について御意見をお聞かせ下さい。
- (2) 発行回数について、年4回程度を目安に発行したいと考えていますが、御意見をお聞かせ下さい。
  - 1 適当である。      2 多すぎる…年      回程度でいい。
  - 3 少ない…1回分の分量をおさえてでももっと発行回数を増やすべきだ。
- (3) その他、会報「エゾマツ」について御意見をお聞かせ下さい。

問5 会費についてお聞きします。現在、年会費3000円を徴収して、会報の作成配布、研修会、講習会の開催などの活動を行っていますが、この金額についてどうお考えですか。

- 1 適当だ。      2 高すぎる。(      円程度が適当)
- 3 安すぎる。(      円程度が適当)

問6 その他、「エゾマツ会」について御意見等がありましたらご自由にお書き下さい。

御協力ありがとうございました。